

## 佐久の先人たち⑫

### 財政再建を成し遂げた初代佐久市長

よ だ い さ お  
**依田勇雄**

(1911~1993年)



県議会議員から初代佐久市長に転身。当時財政赤字が生じ、財政再建団体であった佐久市を再建に導く。優れた先見性をもって、北陸新幹線・高速道路誘致を働きかけるなど、佐久市の創世期を担う。

### 政治家を志す

依田勇雄は、一九二一年（明治44）年、平賀村（現佐久市平賀）で代々酒造業を営む家の次男として生まれた。専修大学に学び、卒業後生家にて、長兄俊雄とともに味噌・醤油等の醸造業に従事した。一九四一年太平洋戦争が勃発し長兄は出征した。勇雄は家業の傍ら、かねてよりの夢であった家具木工製品の良質化に取り組み、翌年平賀木材工業株式会社を設立した。この年長野県会議員の議長経

市民の生活水準の向上と市の発展を図るには、既存企業の育成は勿論、新企業の誘致が必要として六〇坪の工場専用地を造成し、優良企業・大企業の誘致を積極的に進めた。また市内三つの商店街の近代化を図り、岩村田地区、野沢地区については、防災街区造成事業にあわせた近代化を、中込地区は、中込駅前を含む橋場地区を中心とした三〇坪に及ぶ



竣工当時のグリーンモール

も区画整理の必要性を地元商店会から提唱され、依田は様々な問題を解決しつつ、一九七三年からの事業実施に手腕を発揮した。特に他にあまり例のなかった幅一八メートル・延長四二メートルの歩行者専用道路であるグリーンモールを設置するなどして、全国の注目を集め、多くの視察団が訪れた。

区画整理事業を実施した。

中込橋場は佐久甲州街道千曲川の船の渡し場に由来し、一九一五（大正4）年佐久鉄道開発後に市街地を形成していたが、一九六九（昭和44）年に小売店や住宅が密集し道路が狭く防災面から

験者である上田市の滝沢一郎の六女と結婚した。一九四四年には千葉工兵隊に入隊し三カ月勤めた。一九四六（昭和21）年、井出一太郎の衆議院選挙を、同じ酒造業である酒造組合として手伝い、その手腕を買われ県議会議員に推された。翌年、三六歳という若年でありながら南佐久郡選出長野県議会議員に当選し、以来三期二二年間地方自治の振興に努力し、常に県民の福祉と教育文化の向上に精力的な活動を続けた。

### 昭和の大合併で市政を担う

一九五三（昭和28）年に町村合併促進法が、一九五六年には新市町村建設促進法が制定され、全国で昭和の大合併が始まる。佐久地方においても合併の機運が高まった。この合併は、南・北2郡に分離した明治以来培われた郡民感情や、行政上および実務上の相違という難題を抱えていたが、一九六一年ようやく北佐久郡に属する浅間町、東村と南佐久郡に属する中込町、野沢町の越郡合併により旧佐久市が発足し、依田は初代市長となる。

合併で各町村が新市へ持ち寄った赤字は四億七千万円余りと、市年間予算に匹敵するものであった。前途は厳しく、当初、自主再建を掲げていたものの、自治省（現総務省）の見解では、「全国でも一二を争う稀にみる赤字団体」であった。「予想外の財政悪化に財政再建法の適用以外に再建の途

さらに国保浅間総合病院の整備充実を図り、数々の予防医療を実施する。特に脳卒中死亡者が全国のトップにランクされていたなかにおいて予防策として、健康管理センター、医師会の連携によって高血圧の早期発見、冬の一部屋温室づくり運動や減塩運動を展開し、一九八四年には脳卒中死亡者は市発足当時の半分以下、全国平均をも下回ることができた。また、佐久平上水道企業団の設立、公共下水道事業の推進、佐久市開発公社の設立による佐久平カントリークラブ・佐久平国際射撃場の開設など多くの公共事業を実施した。

### 市庁舎建設と将来展望



新しく建てられた8階建ての市庁舎

佐久市発足時の市庁舎は、市内の高校等から払い下げられた建物やプレハブ造りの仮庁舎で、夏には屋根に木の枝を乗せて暑さを凌ぐといった状況であったが、ようやく市政



橋場公会堂の前に建立された胸像

その必要性を市民にも訴えた。市民団体等の反対もあったが、佐久市は最終的に議会の承認を経て準用財政再建団体となる。

再建計画案は、「①市の財政規模からすると赤字解消には十六年を要する計算になるが、これを九年内に短縮する。②全国の類似都市に比較して職員数が二〇人多いが、当面八〇人減員する。③旧町村内にあった補助費を整理統合して法定基準内にとどめる。」というものであった。

印刷物は全て手刷りで裏紙を使用、業者への発注は廃止し、職員の出退勤手当、消費的経費の抑制策を講じたほか、職員組合の猛反発にも関わらず連日連夜にわたって組合交渉を行い、八二名に及ぶ職員の人員整理を大英断をもって実施した。

### 財政再建団体から脱却

依田は土地改良・農業振興・河川改修・学校・保育園の建設などの諸事業を積極的に進めながらも八年の歳月をもって膨大な赤字を解消させた。

一五周年記念を兼ねた市庁舎落成式典が一九七六（昭和51）年に行なわれた。

また、佐久市の将来を展望するとき、交通網の整備進展が産業開発につながるとして国道254号線の内山峠整備、北陸新幹線・関越自動車道上越線（上信越自動車道）の佐久通過実現のために積極的に国に陳情し、一九七三年には念願の北陸新幹線の整備計画が確定し、今日の佐久市発展の礎を築いた。一九八三年二月、長年にわたる功績に対し、佐久市名誉市民第一号として称号が授与された。

昭和の大合併を経て準用財政再建団体としてスタートした佐久市であったが、八年間という短期で再建。四期一六年間ひたすら市民の福祉と都市基盤の整備に、日夜寝食を惜しみ奔走した。また強い信念と類まれな先見性をもって、市の将来を夢に描き、その実現に身をささげた生涯であった。

（柳澤 潔）

### 参考文献

故依田勇雄（初代佐久市長）顕彰像建立委員会  
「依田勇雄翁顕彰像建立記念誌」柳中神社  
佐久市志編纂委員会「佐久市志 歴史編五現代  
佐久市志刊行会 二〇〇三